

ハクセキレイ

Motacilla alba

セキレイ科・夏鳥(一部留鳥)



ハクセキレイ (オス)

名前の由来

顔が白いセキレイという意味である。セキレイは鶴鴿と書き、背は背筋、令は冷たく澄んでいること。背筋が清冷な鳥という意味である。漢字名：白鶴鴿

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
鳥類

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)21cm。顔の白い、白黒のセキレイ。

オスの夏羽では頭上から腰、尾は黒く、尾の外側の羽は白い。翼は大部分白く、一番外側の初列風切など一部が黒い。額から顔は白くてくちばしから目を通る黒い線がある。またのどから胸は黒い。

メスの夏羽では頭上は黒く背は灰色に黒い羽毛が混じる。のどは白く、胸に三角の黒い模様がある。

オスの冬羽では背が灰色に、のどは白くなって胸に三角の黒い模様ができる。

メスの冬羽では頭上から背まで灰色となり、胸の黒斑は小さくなる。

声：地鳴き(さえざりでない普段の声)は「チチッ、チチッ」と、飛びながら細い声で鳴く。繁殖期には「チュチュイ、チュ、チュイ」「チュチュン、チュチュン」と少し太めの声でさえざる。時には「ジュイ」というような少し濁った声も混じる。

飛び方や歩き方：飛ぶときには、羽ばたきと翼を閉じての滑空とを繰り返す、波のような飛行曲線を描く。

両足を交互に出して素早く歩き、とまると後半身(尾)を

絶えず上下に振る。

類似種と見分け方：セグロセキレイ。

セグロセキレイは顔が黒くて眉と喉が白く、声はジージーと濁っている。



ハクセキレイ(オス・夏羽)。顔は白く黒い線がある



セグロセキレイ。顔は黒く白い線がある

生息環境・分布

低地の海岸地方、河川、湖沼などの水辺を中心にその周辺の水田、集落、市街地などにすむ。十勝では夏、河川敷などの開けた場所に普通に見られる。住宅地でも見られる。

分布：ユーラシア大陸に広く分布する。冬はアフリカ大陸、インド、東南アジアに渡って過ごすものがある。

日本では、北海道、本州で繁殖するが、本州中部以南で越

冬し、全体としては冬の方が多。

北海道(十勝でも)では夏鳥。一部留鳥で繁殖する。3月中旬に渡来し、河川中・下流沿い、平野部の住宅地、農耕地から山地のダムなど開けた環境に生息する。冬にも少数が残留する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
本州以南(越冬期)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

食性・他生物との関わり

主としてカゲロウ類などの水辺の昆虫類を食べる。水辺の地上などを歩いて餌をついばむ。飛んでいる虫を河原の石上から飛びついて空中で捕らえるフライングキャッチをしばしば行う。繁殖期には大きな川の流心を左右に往

復して飛び続けながら多くの種類のカゲロウ類を捕らえるという。猛禽類などに捕食される。

繁殖生態

繁殖期は5月～7月、一夫一妻で繁殖する。繁殖期にはなわばりを作る。脅しのディスプレイ（他の個体に対する誇示のための行動や動作）や追いかけでなわばりを守るが、あまり激しくはないという。（→興味深い話の項参照）地上のくぼみや石の間などに営巣するが、建造物の軒下や換気扇などにも営巣する。巣の外装は枯草の茎・葉・根などでお椀型に作り、内装は細い根・羽毛などで作るという。

オスとメスで巣作りの場所を探し歩き、最初にオスが巣材を置き、メスはそれに従い、巣作りはオスメス共同で行うがメスの方がたくさん働く。4～5個の卵を産む。オスメス交代で卵を抱くが、夜間はメスのみが抱く。12～13日でヒナがふ化し、ヒナは14～15日で巣立つ。

興味深い話

- セグロセキレイよりも砂泥地の水辺や人工的なコンクリート護岸を好むという。
- ハクセキレイのなわばりはセグロセキレイのなわばりと重なり、頻繁に出会って対立する。たいていハクセキレイはセグロセキレイに追い払われるのだという。
- 脅しのディスプレイ（他の個体に対する誇示のための行動や動作）として、上を向いて尾羽をあげてさえずったり、ジャンプしたりする。
- 1950年代には北海道、青森県、岩手県でしか繁殖していなかったが、1980年代には兵庫県、広島県でも繁殖が確認されるようになった。このように繁殖分布を南に広げてきた種である。
- 非繁殖期には夜間、橋桁や街路樹などにたくさん集まって、集団峙（ねぐら）を形成するという。
- 十勝地方のアイヌ語では、セキレイ類を「オチュチリ」という。

- 日本神話ではセキレイは国産みの神に性行為を教える鳥として出ており、またアイヌ語名の「オチュチリ」も「交尾する鳥」の意だという。
- セキレイの古名の稲負鳥（いなおうせどり）は刈り取った稲穂のゆれる様子がこの鳥の尾をふるのに似ていたからである。



水辺の石の上にとまるハクセキレイ

配慮事項

採餌環境として昆虫類が生息する水辺が必要。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）
「原色日本野鳥生態図鑑（陸鳥編）」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、（財）日本野鳥の会 1982（1994増補版7刷）
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「分類アイヌ語辞典」知里真志保、日本常民文化研究所 1962

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

Nakamura, S., M. Hshimoto & O. Sootome (1984) Breeding ecology of *Motacilla alba* and *M. grandis* and their interspecific relationship. J. Yamashina Inst. Ornith., 16 : 114-135.
Watanabe, M. & N. Maruyama (1977) Wintering ecology of White Wagtail *Motacilla alba lugens* in the middle stream of Tama river. Misc. Rep. Yamashina Inst. Ornith., 9 : 20-43.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ